

第二回 M&Aフォーラム賞が決定

M&Aフォーラム賞『RECOF賞』などに四作品

二七作品が応募

M&Aフォーラム賞選考委員会は、二〇〇七年度（平成一九年度）「第二回M&Aフォーラム賞」として別表の四作品を選定し、七月四日表彰式が行われた。

「M&Aフォーラム」は、〇五年一〇月の内閣府経済社会総合研究所の「M&A研究会」による中間報告において民と官との連携ができる民間ベイスのフォーラムが提唱されたのを受けて〇五年一二月に設立された。フォーラムは、理論的、実証的及び実務的な視点から、進歩、変化するM&A事情の研究・調査を行い、今後のわが国におけるM&Aのあり方について提言を行うとともに、主に企業人を対象にし

た「M&A人材育成塾」の運営等の活動を通じて、M&Aの普及・啓発、人材や市場の育成に資することを目的としており、さまざまな関係分野の有識者、実務専門家、企業関係者が参加する場となっている。

M&Aフォーラム賞は二〇〇〇年度に「M&Aに関する社会科学の観点からの研究論文の執筆で顕著な業績をあげた学生・院生を顕彰する懸賞論文制度」としてレコフが創設した「RECOF賞」が前身で、M&Aフォーラムからの強い要請もあり、学識経験者、行政担当者、M&A専門家、企業関係者（実業界）、ならびに大学院、大学、各種専門学校を含めた学生にいたるまで幅広い分野を対象を広げ、新たにM&Aフォーラム賞『RECOF賞』

として引き継がれた。

二回目となった今回のM&Aフォーラム賞には学識経験者から七作品、法律・会計事務所から四作品、シンクタンク・コンサルタントが七作品、実業界から三作品、経済・金融専門家から一作品、社会人大学を含めた学生から五作品など合わせて二七作品の応募があり、選考委員長の香西泰氏（経済評論家）のもと、今井光・レコフ代表取締役社長、大杉謙一・中央大学法科大学院教授、富山和彦・経営共創基盤代表取締役、西山茂・早稲田大学ビジネススクール教授、深尾京司・一橋大学経済研究所教授の五人の委員によって選考が行われた。

今回の選考経過について、香西委員長はこう語る。

「審査にあたりましては、①理論的・実証的な分析を行っているもの、②実用性・実務への応用可能性が高いこと、③M&Aの啓蒙に資するもので、経済界全体への影響力が高いと判断されるもの、④作品が独創性に富んでいること、⑤問題点を先取りし、その解決の糸口を論じたもの、等を主な選考基準といたしました。とりわけ今回は、日本におけるM&A活動の諸問題に真

正面から言及し、啓蒙力の高い点を重視いたしました。その結果、六名の満場一致により、正賞を宮島英昭氏編著の『日本のM&A…企業統治・組織効率・企業価値へのインパクト』に、また、奨励賞を太田 洋氏の『委任状勧誘に関する実務上の諸問題』委任状争奪戦（proxy fight）における文脈を中心に」と北村慶氏の『買収されるのも悪くない。三角合併解禁の本当の意味』の二篇に決定した

〈受賞作品〉

M&Aフォーラム賞	作品	作者
正賞 『RECOF賞』	『日本のM&A 企業統治・組織効率・ 企業価値へのインパクト』	宮島 英昭（編著） 早稲田大学商学大学院教授
M&Aフォーラム賞 奨励賞 『RECOF奨励賞』	『委任状勧誘に関する 実務上の諸問題 ～委任状争奪戦（proxy fight） における文脈を中心に～』	太田 洋 西村あさひ法律事務所パートナー弁護士
	『買収されるのも悪くない。 三角合併解禁の本当の意味』	北村 慶 大手グローバル金融機関勤務・作家
M&Aフォーラム賞 選考委員特別賞 『RECOF特別賞』	『アクティビストファンドと 株価効果』	小野 美和 立教大学 大学院ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻 博士課程 前期課程修士



右から北村慶氏の代理・鬼塚忠氏（アップルシード・エージェンシー代表取締役）、太田洋氏、香西泰・選考委員長、落合誠一・M&Aフォーラム会長、宮島英昭氏、小野美和氏

しました。さらに、社会人大学を含む学生さんからの作品で、表彰作品に準じた優秀な作品があれば、別途、賞を設けようということになり、小野美和さんの『アクティビストファンドと株価効果』を選考委員特別賞といたしました」

また、落合誠一・M&Aフォーラム会長（中央大学法科大学院教授、東京大学名誉教授）は、このM&Aフォーラム賞について、

「わが国企業のM&Aは、引き続き高水準で推移しています。ところが直ちに次のような疑問が浮かびます。わが国のM&Aは本当に使い勝手がよくなったのか、M&Aの需要に対して迅

速かつ的確に対応できているのだろうか、等々の疑問です。例えば、地方の活性化にM&Aは効果的な手法のほずであるが、残念ながら大きな成果をあげているとの話はあまり聞きません。同様に、大規模な上場企業においてさえも、また企業価値を増加させる蓋然性が高いと一般に評価されるような場合であっても、必ずしもM&Aが実現するとは限りません。これらの事実を考えると、やはりわが国のM&Aには、まだまだ乗り越えなければならぬさまざまな問題が依然として存在すると判断せざるをえません。

その実行には関係法規に精通した専門の弁護士はもとより、会計士、税理士、投資銀行、各種コンサルタント等の助力も必要であります。また言うまでもなくM&Aの当事者の経営者、株主、債権者、従業員等の会社利害関係者（ステークホルダー）の意欲と協力が必要であります。本フォーラムには、様々な関係分野の有識者、実務専門家、企業関係者等が参加されています。ここでの活動が、学問と実務のコラボレーションによって、わが国M&Aの発展に貢献できることを期待しております」と語っている。

受賞の言葉

◆ 宮島英昭氏

早稲田大学商学術院教授

今回、私が編集した『日本のM&A』（東洋経済新報社刊）がM&Aフォーラム賞を受賞し、非常に光栄に思っております。執筆に加わって頂いた方々、また、研究をサポートして下さいましたRIETI（独立行政法人経済産業研究所）の関係者の方々とも喜びを分かち合いたく存じます。また、本書の分析はレコフのM&Aデータ系列に支えられおり、ご協力頂いた皆様にお礼申し上げます。本書は、一二の論文、総勢二〇人の執筆者からなるため、各章の形式、難易度を均質とすることに苦勞しました。また、M&Aは進行中の現象なので、いつまでのデータで分析するべきか、また、どれくらい踏み込んだ詳細を下すかといった点にも熟慮したことが思い出されます。日本のM&Aについて、可能な限り整理された全体像を描いてみたいというのが編集にあたっての私の狙いであり、そのために、定量分析とケース分析を組み合わせて、国内第一線の研究者に執筆をお願いし、また、序章と終章では、日本のM&Aの歴史や国際比較の分析を加えました。そうした試みがこのように高く評価されたことを大変うれしく思っております。今後も、執筆者一同、本書の分析を出発点に、残された問題、近年発生したM&Aに関連する 이슈について、さらに実証分析を深めていきたいと存じます。

◆ 太田洋氏

西村あさひ法律事務所パートナー弁護士

この度は栄えある「第2回M&Aフォーラム賞奨励賞」を頂けることになり、本当に嬉しく、また光栄に思っております。小生が受賞対象となった本論文の基礎となった委任状争奪戦に関する諸問題についての報告を証券取引法研究会（現・金融商品取引法研究会）で行わせて頂いた二〇〇五年当時は、

我が国でここまで早く上場会社での委任状争奪戦が珍しいことではなくなるとは想像もつきませんでした。この数年の実務の進展には本当に眼を瞠る思いです。この度の受賞は、証券取引法研究会における諸先生方のご指導の賜物に他なりません。今後も実務と学界とをつなぐ立場で我が国のM&A実務の発展に微力ながらも貢献できればと思いを新たに致しております。

◆ 北村慶氏

大手グローバル金融機関勤務・作家

一介の金融マンである私の著書が奨励賞に選ばれたことを大変光栄に思います。零細企業の事業承継案件をはじめとして、ファンによる買取あるいは大企業同士の合併等、さまざまなM&Aに関わって参りましたが、企業を円滑に引き継ぐことや、売り手・買い手双方にとってWIN-WINとなる案件を成約させることの難しさとその意義を感じながら仕事を参りました。本書は、多くのプロと話を伝えようとして参りました。多様性と素晴らしさを伝えようとして執筆したものです。人口減少時代の経済活性化のためには、M&Aは益々重要になります。レコフのご支援によるこのフォーラム賞が一層発展することを期待するものです。

◆ 小野美和氏

立教大学大学院ビジネスデザイン研究所
ビジネスデザイン専攻 博士課程前期課程修士

この度は特別賞を頂きまして誠にありがとうございます。論文執筆にあたり暖かくご指導下さいました立教大学の亀川雅人教授、諸先生方に心から感謝いたします。今回の研究を行うきっかけは、アクティビストファンドに対する世間の風潮と、実際にファンドが市場に与えるプレッスンとの間にギャップを感じており、ファンドが市場に与える影響を客観的に分析する必要があると考えたからです。今後も実務を通じて感じたことを客観的に分析できるように引き続き研究を続けてまいりたいと思っております。このような機会を下さいましたM&Aフォーラムの皆様方、選考委員の先生方に厚く御礼を申し上げます。今後ともご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。